

## 平成27年度自己評価シート(年度末評価まとめ)

校番	068	学校名	広島県立祇園北高等学校	校長氏名	濱岡 正	全・定・通	Ⓐ・分
----	-----	-----	-------------	------	------	-------	-----

## 1 評価結果の分析

## (1) 成果

## ① 教職員の授業力・実践力と学校組織力の向上

- ・生徒への授業アンケートによる授業満足度に係る肯定的回答率が目標を超えた。活用コアスクール指定校として、学びの変革に向けた推進体制の確立、公開研究授業の実施、入試問題研究と活用問題の考査への導入などの取組を推進することができた。
- ・第3回業務改善モデル校アンケートでは、「生徒と向き合う時間」が確保できているとする割合は、第1回の結果よりも上昇した。また、業務改善モデル校として、配置された教務事務支援員は業務の効率化に役立っている。

## ② 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実

- ・目指す学部・学科内容に応じて指導担当を割り当て、個に応じた教科及び技能指導、面接・小論文指導を充実させた。2学年では、模試偏差値(総合)54以上の人数が目標値を上回った。
- ・オープンキャンパスでは、歓迎演奏や学校紹介、受験体験などを生徒が主体となって進め、5教科による体験授業などにより充実を図った。HPの更新は部活動や行事を速報形式でトップページに掲載し、更新回数は昨年度を超えた。
- ・「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」では、予定の取組を概ね実施できた。生徒アンケートでは、92%の肯定的回答を得られた。

## ③ 生徒の自立と自律の組織的な支援

- ・環境美化や教育相談に係る生徒及び保護者へのアンケートでは、環境美化活動及び教育相談体制ともに肯定的回答が昨年度よりも上昇した。

## (2) 課題

## ① 教職員の授業力・実践力と学校組織力の向上

- ・今後、活用コアスクール指定校2年目として、学びの変革(学びの深まり)に向けた取組を充実させる必要がある。大半の生徒が進学する本校として、高大接続改革に目を向けるなど、本校にとって適切な取組を設定し、具体的に推進していく必要がある。
- ・業務改善アンケートでは、教職員の学校経営への参画意識が低く、意識の高揚させる取組を行う必要がある。

## ② 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実

- ・大学入試センター試験(900点換算)における全国平均点以上の人数、そして1学年の模試偏差値(3教科総合)における人数の挽回が急務である。また、家庭学習時間が目標を達成しておらず、学習意欲・進路意識を向上させる取組を進める必要がある。

## ③ 生徒の自立と自律の組織的な支援

- ・全学年で家庭学習時間が目標値を超えることができなかった。3学年は夏季休暇以降、学習時間を増加させたが、取組の開始が遅かった。
- ・遅刻者数は、昨年度の1日4名程度から4.8名(通院等含む)に増加した。ルワンダレインボープロジェクトを継続し、ライオンズクラブから表彰され、教育長表敬訪問も実現した。しかし、アンケート結果によるこの活動の知名度は、目標値に届かなかった。規範意識やマナーの向上において、生徒の自主自立性を更に育成していく必要がある。
- ・保護者アンケートでは、「体罰・セクハラ相談窓口」の設置について、「知らない・よくわからない」という回答が2割程度存在した。

## 2 今後の改善方策

## (1) 教職員の授業力・実践力と学校組織力の向上

- ① 教育研究機関との連携を通して、入試問題研究・活用問題の分析を進めるとともに、学びを深める授業づくりに取り組み、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、活用問題を取り入れた課題発見・解決型授業を各教員が実施し、互見し合うシステムを整える。
- ② 業務改善に向け、「教材の共有化、会議の改善、分掌業務の再編と分担の明確化」を進め、教職員の学校経営への参画意識の高揚を図る。教務事務支援員の効率的活用に向けて再確認を行う。

## (2) 高い志を持った生徒の進路実現と理数コースの充実

- ① 新入生の初期指導を充実させるとともに、教科担当者面談や進路意識の高揚を図るタイムリーなガイダンスの充実、進路分析会議と小論文指導研修会の充実に取り組む。また、補習等、学力向上に係る事業を改めて見直し、より効果的な指導となるように再構築を図る。
- ② 次年度、「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」を通じて、理数コース生徒の学びを深化させるよう取組を進める。

## (3) 生徒の自立と自律の組織的な支援

- ① 学びの変革(学びの深まり)の取組を推進するとともに、それが予習・復習の充実につながるものとする。3年間を見通し、より組織的・計画的なキャリア教育・進路指導を進めていく。また、家庭学習時間における目標を達成できていない生徒に対する個別面談を充実させる。
- ② 新入生の初期指導を充実させ、基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。次年度、自転車交通安全に係る研修を、県教育委員会の実施した形式に準じて自動車学校と連携して行う。新入生に対し、ひまわり里親プロジェクトとルワンダレインボープロジェクトのPRを行うとともに、学校への帰属意識や自尊心の醸成に繋げる取組を進める。
- ③ 保護者の本校に対する満足度を高めるために、本校の環境美化活動や教育相談活動についてあらゆる機会を利用して発信する。

## 3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・高い志を持った生徒の進路指導と生徒の学習意欲・態度の育成に向けた本校教職員の取組と努力を評価していただいた。今後、生徒の進路実現のため、国公立大学合格をはじめ、生活態度(遅刻・服装・挨拶等)の育成、スポーツ実績等の目標達成に向けて、地域の信頼される学校として、より組織的・計画的に取組を推進していく。